

4. 肝がん

○

○: 専門とするがん △: グループ指定により対応しているがん ×: 診療を実施していないがん  
 ※別紙4に入力した内容が反映されています。  
 ※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

集学的治療・標準的治療の提供体制  
 ○: あり △: グループ指定により対応(地域がん診療病院のみ選択可) ×: なし ○

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数	治療の実施状況 (○: 実施可 / ×: 実施不可) / 昨年の実績 (あり/なし) ※平成25年1月1日~12月31日									各診療科における当該疾患の治療の特色・患 者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
	主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を 専門として いる医師数	手術	化学 療法	穿刺療法		TACE/ TAE	放射線療法		ページの見出しとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーして ください	掲載されている内容				
						RFA	PEIT		体外 照射			定位 放射線 療法	治療内容	治療実績	医師の 専門 分野	
1 消化器外科	11	4	状況 実績	○ あり	○ あり	× なし	× なし	× なし	× なし	× なし	原発性肝細胞癌に対しては、肝臓癌の大きな発生原因であるウイルス性肝炎、肝硬変の専門医を有する消化器内科と連携し、肝切除を中心に相補的な外科治療(腹腔鏡下マイクロターゼ焼灼術、開腹下ラジオ波焼灼術など)を積極的に行っています。また、大腸癌を中心とした転移性肝癌に対しても積極的各種造影剤を駆使した超音波(エコー)・CT・MRI検査によって、肝細胞癌の早期発見につとめます。患者さんの治療方針は、消化器科主治医が肝臓治療ガイドラインに沿って、ラジオ波焼灼術(RFA)・肝動脈塞栓術・手術などから最適の治療法を選択しますが、治療方針の決定が複雑な症例に対しては、放射線治療科、眼に見えない放射線という物質を巧みに操ることで腫瘍性疾患を消滅・縮小させるものです。うまく使えば手術や化学療法以上に素晴らしい力を発揮します。もちろん欠点もありますから、他の治療との連携が非常に重要です。そして、患者さんの意識がある状態で行うことが多いので、患者さん	ア イ	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/surgery/html/sikkan/kanzou.html http://	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 消化器内科	9	9	状況 実績	× なし	○ あり	○ あり	○ あり	× なし	× なし	× なし	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/ge/kan_sikkan.html http://	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3 放射線治療科	2	2	状況 実績	× なし	× なし	× なし	× なし	○ あり	○ あり	× なし	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/radiolog/ http://	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
4			状況 実績								ア イ	http:// http://				
5			状況 実績								ア イ	http:// http://				

グループ指定を受ける施設との連携状況 ※グループ指定を受ける場合のみ記載すること	
---	--

昨年の治療実績ありの疾患名 ※平成25年1月1日~12月31日	例: 肝がん 肝細胞がん、転移性肝癌、肝内胆管がん、肝門部胆管がん
------------------------------------	--------------------------------------